四條畷高校地歴考古学クラブが拓いた飯盛城跡研究

四條畷市教育委員会
實盛良彦

１．四條畷高校地歴考古学クラブの歴史

大阪府立四條畷高等学校に考古学クラブが誕生したのは、昭和 25 年４月のことでした（第１期）。クラブでは顧問**片山長三**さんの指導により四條畷市更良岡山遺跡や枚方市田口山遺跡、同穂谷遺跡などの調査を行っており（大阪府立四條畷高等学校記念誌委員会編 2006）、昭和 20 年代の日誌の写しによれば、昭和 28 年 12 月 25 日と、29 年３月～４月に飯盛城跡の調査も行っていました。

その後、一時クラブは休眠状態にありましたが、昭和 39 年４月に**山口博**さんを顧問に迎え、**坂元直哉**さんを中心に地歴考古学クラブ（当初は同好会）として復活しました（第２期）。のちに二度目の休眠期を経て再復活し、少なくとも平成 16 年頃まで地歴部として活動していました（第３期）。

図１　片山長三さん（昭和 23 年）

図２　山口博さん（昭和 49 年）

図３　飯盛城跡　Ⅴ郭（御体塚郭）から
Ⅰ郭（高櫓郭）を望む（昭和 28 年頃）

図４　クラブによる記念祭（文化祭）での
調査成果展示（昭和 29 年 10 月 23 日）

※図１・３・４・９・10 は大阪府立四條畷高等学校提供。図 12・13 は同校蔵・四條畷市教育委員会撮影。

２．クラブによる飯盛城跡縄張り調査

第２期には坂元さんを中心に精力的に飯盛城の調査研究を行い、その成果は**部誌『古流』**にまとめられ（四条畷高校地歴考古学部 1965・1966）、坂元さんにより学会にも報告されました（坂元 1967a、b、1968）。

その研究の大きな成果は、**縄張りの配置**を図面とともに報告したことであり、以後の研究の礎となりました。調査は現地での実測を伴う高い精度のもので、**初めて主要部以外の東西の尾根にのびる曲輪群を曲輪として認識**し、図面とともに報告しました。

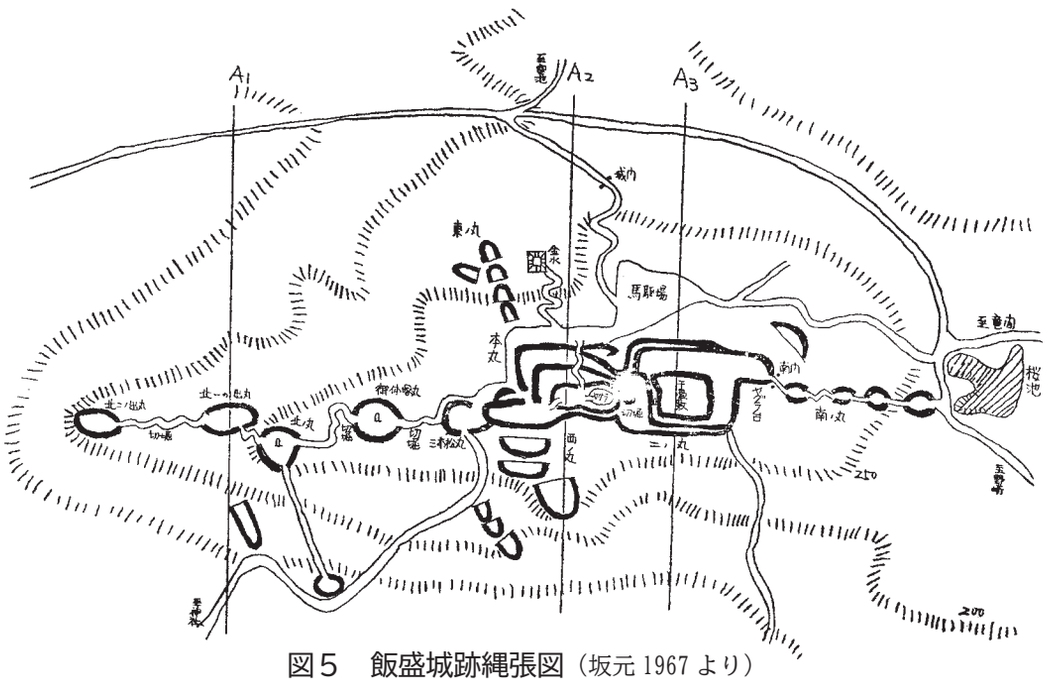

図５　飯盛城跡縄張図（坂元 1967 より）

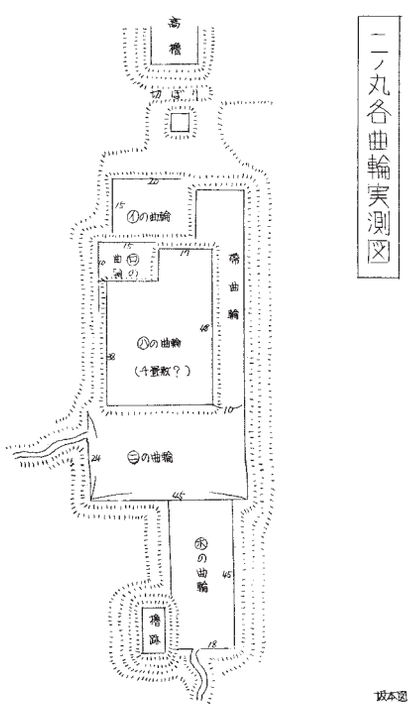

図６　Ⅷ郭曲輪図（地歴考古学部 1965 より）

図７　Ⅴ郭からⅥ郭を望む（昭和 45 年３月）

３．クラブによる飯盛城跡発掘調査

坂元さんの卒業後もクラブでは飯盛城の調査を継続し、昭和 42 年には５月と 12 月に**「東の丸一の曲輪」**において**発掘調査**を実施しました。翌年に報告書をガリ版刷りで刊行しており（東の丸調査報告係編 1968)、後に部誌において報告がなされました（岩田・江藤・出口・藤原 1969)。**調査スナップ写真、調査日誌、出土遺物の一部が現在も四條畷高校社会科教室に保管**され、内容を知ることができます。それらによれば、調査は５月３日と 12 月 16 日～ 22 日に行われました。５月の調査はトレンチの規模と断面図を記録しており、地表下約 30cm で「花崗岩風化物」を確認し地山（自然に堆積したとみられる土壌）と認識しました。**刀の目貫とみられる銅製品**が出土し、注目に値します。12 月にはトレンチ２カ所を設け、それぞれ一辺１ｍの正方形グリッドを設定し、掘削は深さ５㎝ごとに人為的に土層を分割し、グリッドと土層ごとに遺物を取り上げ、出土位置を記録しました。図面に「垂心」の記載があり、**平板を用い測量**していました。最終的に地表下約 30cm で花崗岩風化土を確認しましたが、そこからも土器が出土したことを今後の課題として報告しました。出土遺物も一部略図と

図８　発掘調査状況のスケッチ（八木良蔵さん画・鉛筆・昭和 42 年 12 月）

図９　発掘調査状況写真（昭和 42 年 12 月 22 日）

図 10　畷高祭（文化祭）での活動報告（昭和 42 年９月 29 日～ 10 月１日）

計測値を載せ報告しており、土師器・瓦質土器を含む土器片 352、瓦片９、鉄釘 34、白磁１、貨幣１のほか、円筒形の銅製品や、キセルなどが出土しました。これ以前の踏査採集遺物も略図とともに報告し、その中に土器とともに採集した銅銭、**刀の鍔部分の金具である切羽**とみられる銅製品などが含まれていました。また、「廃御机神社」採集とされるものが数点あり、実物には墨書きの注記があるため昭和 20 年代採集品の可能性があります。これは江戸期の南野村文書に「飯盛山二ノ丸に鎮座」とされる（山口 1990）、飯盛山北麓の字宮谷で採集したものと考えられます。

こういった中で部活顧問である山口博さんが坂元さんと共同で研究発表を行い（山口・坂元 1967）、引き続いて自費出版の四條畷町史と（山口 1968）、四條畷市制施行後の市史に成果を掲載し（山口 1972）、城跡の内容が広く知られるようになりました。

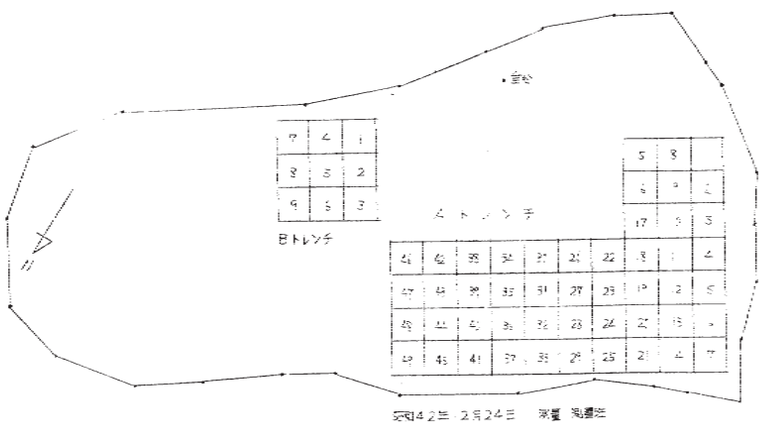

図 11　昭和 42 年 12 月調査トレンチ配置図（岩田・江藤・出口・藤原 1969 より、縮尺 1 ：200）

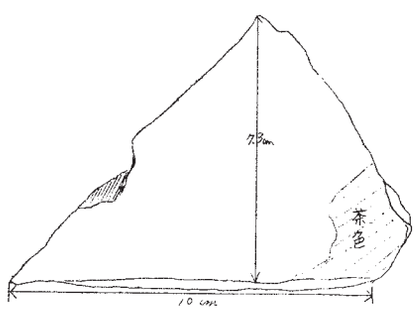

図 12　出土・採集遺物
（上：目貫・切羽など。下：碁石・キセルなど）

図 13　Ｖ郭採集の塼
（上は 1968 報告図）

４．クラブによる調査の意義と展望

四條畷高校の生徒による飯盛城跡の調査の特徴は、学生を主体とした活動でありながら、考古学的にみても十分な情報を得ていることです。**飯盛山の主尾根以外にも城跡の曲輪が広がることを初めて確認**し、報告したのはこれらの学生たちでした。図化を伴うことで客観的具体的な報告が心がけられており、現代の視点からみても価値の高い報告です。山頂付近が木々で覆われる以前の記録として、またNHK飯盛山FM送信所が建設される以前の状況を示す資料として貴重な内容を含んでいます。

なかでも昭和42年12月の発掘調査は、当時考古学分野で標準だった**平板測量**の手法で調査地区の図化をおこない、**人工的に層序を分ける**ことで部員間の土層観察経験の浅深を克服し、**遺物出土位置と層位が細かく記録**されていました。その出土遺物は、来歴の知れない資料や、出土地が伝聞されたのみの資料とは異なり、**出土位置や状況が正確にわかる第一級の考古学資料**と言えます。

今後、さらに研究を進めていくことで、調査された曲輪の機能の検討や、主要な曲輪との比較などを行うことができるであろうと考えています。

※元部員の坂元直哉さん・大下隆さん・江藤敬直さん・野間康三さんから資料の提供を得ました。出土銅製品の鑑定は村瀬陸さん（奈良市教育委員会）の協力を得ました。記して謝意を表します。

参考文献

岩田美奈子・江藤敬直・出口和美・藤原ひろみ1969「飯盛城址の研究―飯盛城東ノ丸一ノ曲輪調査報告―」『古流』第４号、四条畷高校地歴考古学クラブ。

大阪府立四條畷高等学校記念誌委員会編2006『畷百年史』大阪府立四條畷高等学校創立100周年記念事業実行委員会。

大阪府立四条畷高等学校「畷八十年史」編集委員会編1987『畷八十年史』大阪府立四条畷高等学校同窓会。

坂元直哉1967a「飯盛城」『日本城郭全集』９、大阪・和歌山・奈良篇、人物往来社。

坂元直哉1967b「河内飯盛山城」『城春』第８号、日本城郭近畿学生研究会。

坂元直哉1968「河内飯盛城」『城』第47号、関西城郭研究会。

四条畷高校地歴考古学部（坂元直哉編）1965「飯盛城址の研究」『古流』第１号、四条畷高校地歴考古学部。

四条畷高校地歴考古学部（坂元直哉編）1966「飯盛城址の研究（二）」『古流』第２号、四条畷高校地歴考古学部。

東の丸調査報告係（岩田美奈子・江藤敬直・出口和美・藤原ひろみ）編1968『飯盛城東の丸一の曲輪調査報告』地歴考古学クラブ。

山口　博・坂元直哉1967「河内飯盛城」『城と陣屋』13号、日本城郭協会近畿支部研究会。

山口　博1968「河内飯盛城」『四條畷町の歴史』。

山口　博1972「中世の四條畷」『四條畷市史』第１巻、四條畷市役所。

山口　博1990『四條畷市史』第４巻、四條畷市役所。

李　聖子編2020『飯盛城跡総合調査報告書』大東市教育委員会・四條畷市教育委員会。